

IP電話/VoIPの付加価値化に朗報 「Intel NetStructure HMP」がLinux対応の新バージョン

インテルの提供するIPメディアサーバー向け開発プラットフォーム「Intel® NetStructure™ Host Media Processing (HMP)」が、2004年10月にバージョンアップされた。新バージョン「Intel NetStructure HMP1.2」は、音声処理能力の向上に加え、Linux対応によりキャリアや通信機器メーカーの求める高度な要求に応える性能・品質を実現した。

2002年10月にデビューしたIntel NetStructure HMPは、トップシェアを誇るインテルの音声/FAXボードの機能を継承したソフトウェア。専用ハードウェアを必要としないIA(Intel Architecture)32サーバー上でメディア処理を実現する。

その利用価値は、キャリアのIP電話サービスや企業のVoIPネットワークにおける高付加価値を容易に実現できる点にある。Intel NetStructure HMPをベースとしたIPメディアサーバーを構築すれば、さまざまなアプリケーションを低コストかつ短期間で開発できるようになるからだ。

2003年10月に行われたバージョンアップ(1.1)では、1サーバーでの音声処理チャンネル数を64から120に拡大し、コストパフォーマンスを向上させた。さらに1年後の昨年10月には、バージョン1.2がリリースされた。

新バージョンでは、音声処理能力をさらに高め、1サーバーで240チャ

ネルまでカバーできるようにした。加えて、対応OSも従来のWindowsからLinuxまで拡大した。

キャリアサービスとの連携も実現

インテル製品の販売代理店である東京エレクトロン デバイスによれば、Intel NetStructure HMPはこれまで、ボード製品の主要供給先であるコールセンター向けシステムでの採用実績が目立っていたが、今回のバージョンアップによってマーケットが大きく広がるものと見ている。コミュニケーションプロダクトグループ課長の神田裕彦氏は、「キャリア/ISPやPBX/ビジネスホンメーカーからLinux対応を求める声が多くありましたから、Intel NetStructure HMP1.2であれば商談もスムーズになるはず」と期待をかけている。

東京エレクトロン デバイスでは、今後の実績アップに向けて、Intel NetStructure HMPと連携するコン

セミナー開催

東京エレクトロン デバイスでは、イメージパートナーの「iPartSIP」とIntel NetStructure HMPの連携によるメディア処理のデモを交えて、システムの各種機能を紹介する「iPartSIPセミナー」を開催する。

日時 2005年3月18日(金)13時30分～17時
場所 TBS放送センター(東京・赤坂)

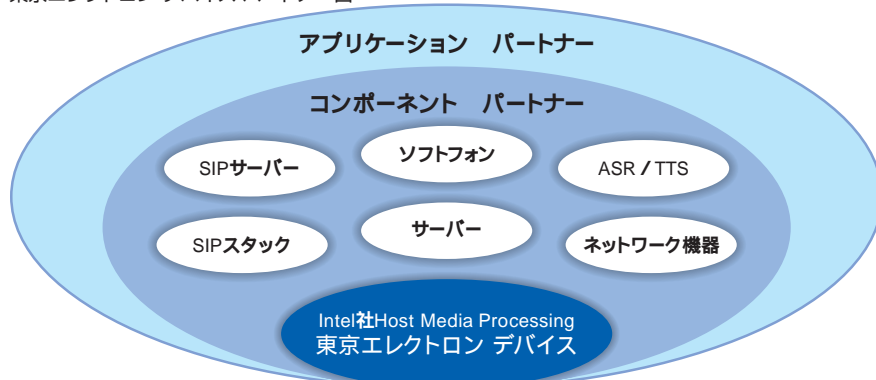
ポーネントやアプリケーションの提供・開発パートナーの開拓にも積極的に取り組んでいる。

その先鞭として昨年7月、CTI関連のソフトウェア開発などを手がけるイメージパートナーと提携し、同社のSIPプロトコルスタック「iPartSIP」とIntel NetStructure HMPの連携を実現。そして12月には、フュージョン・コミュニケーションズとの協業も発表。Intel NetStructure HMPとiPartSIPをベースとして、IP電話サービス対応アプリケーションの開発環境およびサポートの提供を始めている。

神田氏はさらに、「キャリアや複数のメーカーとも、Intel NetStructure HMP導入の具体的な話を進めています」という。

IP電話・VoIPの付加価値競争、市場活性化に、Intel NetStructure HMPが大きな貢献を果たすことになりそうだ。

東京エレクトロン デバイス パートナー図



インテル、NetStructure は、米国およびその他の国におけるインテル コーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。

お問い合わせ先

東京エレクトロン デバイス株式会社
コミュニケーションプロダクトグループ

TEL : 045-474-5298

E-mail : ctisales@teldevice.co.jp

URL : http://cpg-dia.teldevice.co.jp/